

水田貯留「田んぼダム」の手引

田んぼの落水口（排水柵）に切欠のある「田んぼダム用セキ板」を追加し、激しい雨の時に田んぼの排水を抑制することで、雨水を一時的に田んぼに「ためる」取組です。

Step1 取組田の選定

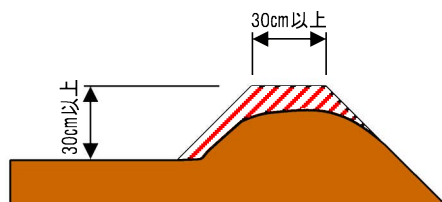
はじめに、雨水貯留に取り組むことについて、集落内での合意形成を図ったうえで、ほ場整備を実施した田んぼ※を中心に、雨水貯留に取り組む田んぼを選定します。

※ほ場整備を実施していない田んぼは、畦が痩せていて災害の恐れがあるため。

Step2 あぜの補強

雨水貯留では、大雨時に水位が最大で現行よりも10cm上がるため、あぜが痩せていると崩壊の危険があります。このため、セキ板を設置する前に水田を点検し、痩せているあぜについては、あぜ塗り機等によりあぜを補強します。

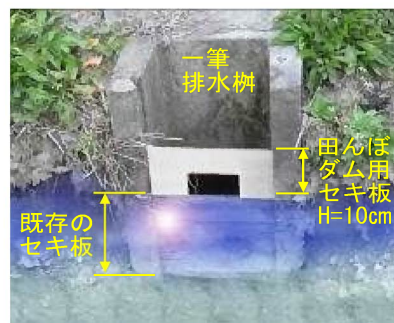
（あぜの高さと幅は30cm以上を確保）



Step3 セキ板の準備・設置

【田んぼダム用セキ板】

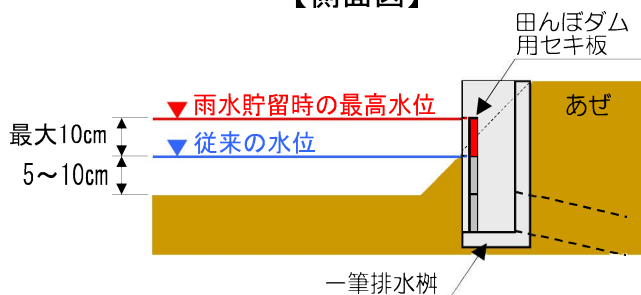
- 配布されたセキ板を現地の排水柵の幅に合うよう、ノコギリで切断するなど、適宜加工下さい。



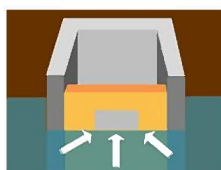
【設置方法】

既存のセキ板の上に「田んぼダム用セキ板」を設置します。普通の雨は切欠から排水され、激しい雨の時に水位が上昇し、セキ板から越流して排水されます。水位が上昇する間に田んぼに雨が貯留されることで、流出が緩やかになります。

【側面図】

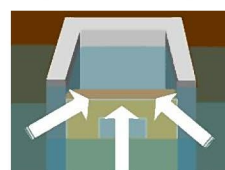


【普通の雨】



切欠から排水

【激しい雨】



一時的に水位が上がりがセキ板を越流し排水

Step4 実施確認

【写真撮影】

セキ板を設置したことが確認出来る写真を撮影して、記録に残しましょう。

資源向上支払（共同）多面的機能の増進を図る活動の加算単価をセキ板の取組で受けている場合には、必須です。

市町担当者から求めのあった場合には、提出下さい。



設置状況の写真例

Step5 維持管理

【設置期間】 5月～10月末（梅雨時期、台風シーズン）

中干しや収穫前等の落水時には、セキ板を取り外すなど、各地域で稲の生育や営農活動に支障のない範囲でセキ板を設置します。営農活動を最優先に対応下さい。

【セキ板設置例：県南部コシヒカリの事例】

項目	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
水稻作付	田植						収穫
(水管理)	深水	浅水	中干	間断かん水	かん水	間断かん水	落水
セキ板設置期間	設置		取外し	設置		取外し	設置

【維持管理】 月1回程度の点検、清掃、除草など

あぜの草刈や水口操作などとあわせて、月1回程度はセキ板を点検し、特に切欠部が詰まらないよう、ゴミの除去や除草が必要です。稲刈り後に設置する場合は、事前に鋤いておくと稲わらが詰まりにくくなります。

【保管】 長持ちするために

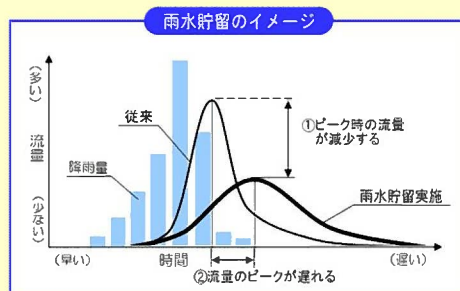
設置期間終了後は、放置せず、翌年まで風雨のない倉庫等に保管しましょう。

注意 降雨時には、田んぼに近づかない！

セキ板を設置して降雨時に田んぼが気になると思いますが、水路に流されるなど事故につながる危険性があるため、雨がやみ、水路等の水位が下がってから、十分注意しながら点検しましょう。

田んぼダムの効果

激しい雨の時に排水路の水位上昇が抑えられます。



強雨時の排水路の水位が従来より約20cm低下 (イメージ)

